



活動報告（第4版）

「若者の未来」のために、復興支援の輪を広げる



明治大学 震災復興支援センター

2017年5月

センター長挨拶



センター長 竹本 田持

2011年3月11日に発生し、未曾有の被害を生んだ東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故。2016年4月14日夜の前震と16日未明の本震に見舞われた熊本地震。被災された皆様ならびに関係者の方々に対し、改めて心よりお見舞い申し上げます。

被災した各地域での復旧・復興へ向けた歩みは、皆様にとって満足できる早さや水準ではないものの、着実に進んでいると思います。しかし、自宅崩壊や原発事故のために避難生活を続けている方、心に大きな傷を受けられた方など、解決できていない問題に直面している状況も少なくありません。

本学は、東日本大震災後に「明治大学震災復興支援センター」を設置し、被災地域への支援に取り組んできました。福島県新地町、宮城県気仙沼市、岩手県大船渡市とは2012年に「復興支援に関する協定」を順次締結して復興支援活動を行ってきましたが、有効期間の5年を迎えた今年、改めて2年間の協定を更新しました。今後2年間の支援活動と並行して、将来に向けた持続的かつ有効な連携・協力のあり方について、地域の皆様と協議していきたいと考えています。

一方、熊本地震の発生を受けてセンター規程を一部改正し、東日本大震災以外の被災地及び被災者も支援対象としました。熊本と本学との地理的条件を考え、まずは本学4キャンパスでの写真展や義援金募集、ホームカミングデーの「震災復興支援プロジェクト」におけるパネルや写真展示など、学内での取り組みを熊本県出身学生とも連携しながら進めています。また、校友会熊本支部主催行事（明治大学マンドリン倶楽部特別演奏会）への支援も行いました。

さらに、より多くの学生が東日本大震災や熊本地震の被災地支援に関心を持ち、復興支援ボランティア活動に参加する機会の提供を目的として、センターの震災復興支援ボランティア活動に伴う助成金制度を見直しました。

今後も、被災地支援を継続するとともに、風化を防ぐための事業を検討していきます。そして、本学ホームページやこの活動報告等を通じて本学による支援活動を積極的に発信してまいりますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

2017年5月

I 震災復興支援センターの設置

明治大学では、震災直後から統括防災本部の下で学生の安否確認、学内被災状況の確認や防災体制の強化、節電対策等の防災や危機管理活動を進めた。一方、被災地の一日も早い復興や被災された方々、避難されている方々の平常な生活を取り戻すため、大学として貢献できる方策を検討し、そのひとつとして、2011年5月に「明治大学 震災復興支援センター」を設置。

センターでは本学各部門における震災復興支援活動の支援、情報の一元化を図ることで大学の社会的責務を果たすことを目的としている。

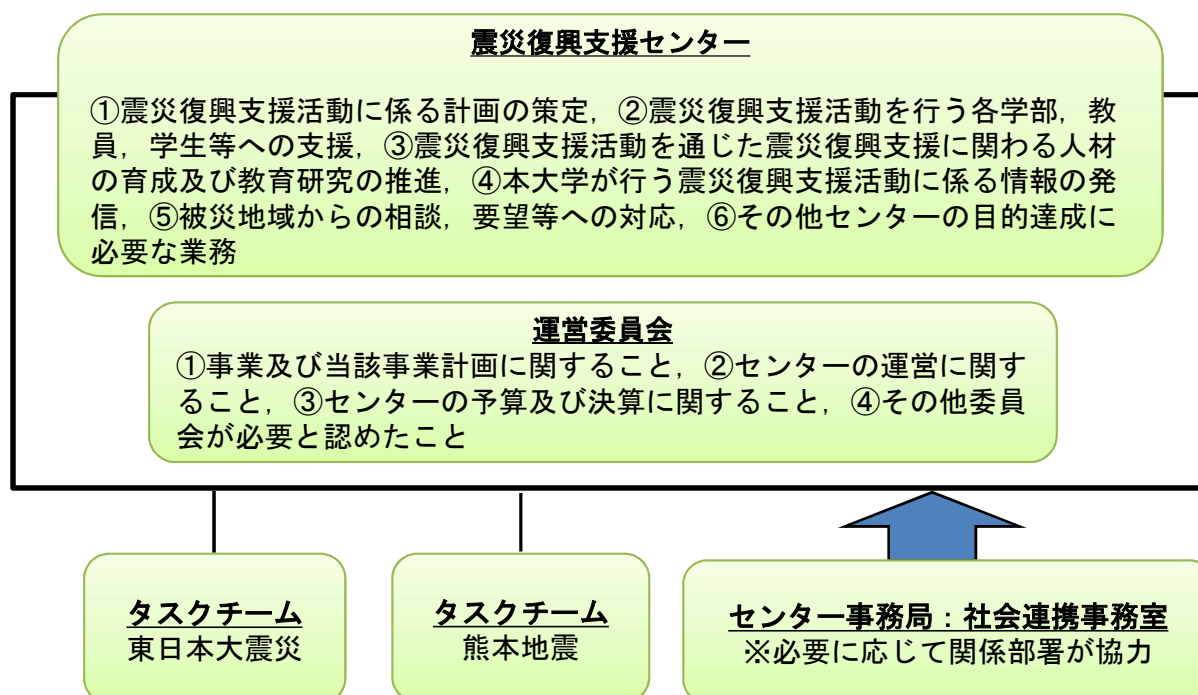
2012年には被災3自治体（福島県新地町・宮城県気仙沼市・岩手県大船渡市）と「復興支援に関する協定」を締結。2016年4月の熊本地震発生を受けて、東日本大震災以外の被災地及び被災者を支援対象とするため、2016年7月にセンター規程を一部改正し、熊本地震への支援を決定した。

2017年度より、多くの学生にボランティア活動参加の機会を提供するため、震災復興支援ボランティア活動に伴う助成金制度を見直した。

また、2017年には今後も継続的に被災地を支援するため、3自治体との「復興支援に関する協定」を2年間更新した。

II 震災復興支援センターの体制

震災復興支援センターでは、震災復興支援活動を推進するための組織として「タスクチーム」を設置し、タスクチームを中心に、震災復興に関する協定を締結している自治体で活動を展開している。2016年4月には、熊本地震発生を受けて、新たに熊本地震のタスクチームを発足した。今後も必要に応じてタスクチームを設置して復興支援活動を推進する。



被災自治体と明治大学との復興支援に関する協力

(2017年5月現在)

宮城県気仙沼市 (2012.05.18 / 2017.5.31)

人口約70,000人。宮城県の北東端に位置し、東は太平洋に面し、南は宮城県本吉郡南三陸町、北は岩手県陸前高田市に隣接。沿岸域はリアス式海岸を形成し、その美しさにより、陸中海岸国立公園及び海中公園並びに南三陸金華山国立公園の指定を受けている。

東日本大震災においては、同市の死者・行方不明者が1,322名を超えた。

本学と気仙沼市は2012年5月18日、東日本大震災に関わる諸課題の解決や施策の実施について協働するため、「震災復興に関する協定書」を締結。気仙沼市職員採用試験の東京会場に、本学駿河台キャンパスを提供。2017年5月31日に、協定を2年間更新した。

岩手県大船渡市 (2012.04.23 / 2017.5.30)

人口約40,000名。2001年11月に旧市と三陸町が合併して誕生。同市は、岩手県の沿岸南部に位置し、陸中海岸国立公園の代表的な景勝地として知られる碇石海岸や三陸沿岸の最高峰五葉山県立自然公園などを有する自然豊かで風光明媚な街として知られる。

東日本大震災では、死者・行方不明者が425名を超え、物的被害も判明分だけで1,077億円を超えた。

本学と大船渡市は2012年4月23日、東日本大震災に関わる諸課題の解決や施策の実施について協働するため、「震災復興に関する協定書」を締結。

大船渡市へは震災直後から、本学からも多くの関係者が支援や調査のために現地で活動を行っていた。特に震災復興支援センターでは、株式会社NTTPCとの協力のもと、「つむぎルーム」を設置し、現地の中高生などへの学習支援や、クリスマスツリーを設置。これらの積み重ねとともに相互訪問等、連携深化に向けた協議の結果、協定締結に至った。現在では、地域課題の解決に向けた取組を実施。2017年5月30日に、協定を2年間更新した。

福島県新地町 (2012.01.26 / 2017.1.25)

人口約8,000名。福島県最北部の太平洋岸にあり宮城県山元町に隣接。沿岸部のみならずJR常磐線新地駅周辺の市街地まで津波による被害を受けたが、同町の復興プランが閣議決定を受けて新成長戦略に示された「環境未来都市」に採択されるなど、急速に復興が進んでいる。

本学と新地町は2012年1月26日、東日本大震災以後の地域復興に関わる諸課題の解決や施策の実施について協働するため「震災復興に関する協定書」を締結。

ボランティア活動を含めた学習を単位付与する実習科目である、学部間共通総合講座「東日本大震災復興支援ボランティア講座」の実習を新地町で実施(2012年-2015年)。祭り支援等、現地の要請にも学生を派遣。2017年1月25日に、協定を2年間更新した。

被災自治体と明治大学との震災復興に関する協定書 (復興支援協定)

被災自治体と本学との間の復興支援協定とは、「震災後の地域復興に関わる連携・協力を推進することによって、地域復興と地域を支える人材育成に寄与すること」を目的とした協定です。この協定に基づき、自治体と本学は、①震災後の地域復興・地域活性化、②復興の担い手となる人材育成、③教育・文化・学術面における地域の復興・発展、④その他の復興支援の四つの分野で連携していきます。

●熊本県

当センターは、これまで東日本大震災における復興支援に特化していたが、2016年4月に発生した地震で、甚大な被害を受けた熊本県に対して、当センター規程の一部を改正し、支援を開始した。

益城町の中学校で折紙工学「夢講義」の開催、益城町と阿蘇市で、校友会熊本支部を中心に、マンドリン倶楽部演奏会の開催をした。(※ 詳細はP.8参照のこと)



●千葉県浦安市では、2012年6月5日から2014年3月31日までボランティア活動拠点を設置し、様々な活動を行った。

Ⅲ 本学震災復興支援の経緯

【2011年】

- 5月 1日 「震災復興支援センター」を設置
- 6月 5日 「浦安ボランティア活動拠点」を千葉県浦安市に設置(2014年3月31日閉鎖)
- 11月 3日 岩手県大船渡市に「つむぎルーム」を設置(2016年1月31日閉鎖)

【2012年】

- 1月26日 福島県新地町と「復興支援に関する協定」を締結
- 1月30日 東北の被災地を支援するために「東北再生支援プラットフォーム」を猿楽町校舎に設置(2016年3月31日閉鎖)
- 4月23日 岩手県大船渡市と「復興支援に関する協定」を締結
- 5月18日 宮城県気仙沼市と「復興支援に関する協定」を締結

【2015年】

- 4月 福島県新地町に「新地町明治大学ボランティア活動拠点」開設(2017年3月31日閉鎖)

【2016年】

- 4月 センター所管部署移管(教学企画事務室 ⇒ 社会連携事務室)
- 7月 センター規程を一部改正, 東日本大震災以外の被災地も支援対象とする

【2017年】

- 1月25日 福島県新地町との「復興支援に関する協定」を2年間更新
- 4月 1日 「震災復興支援ボランティア活動に伴う助成金制度」の見直し
- 5月30日 岩手県大船渡市との「復興支援に関する協定」を2年間更新
- 5月31日 宮城県気仙沼市との「復興支援に関する協定」を2年間更新

Ⅳ センターの主な取り組み

ボランティア活動支援

●「震災復興支援ボランティア活動に伴う助成金制度」

意欲ある学生の経済的負担を少しでも軽減し、多くの学生がボランティア活動に参画できることを目的に「震災復興支援ボランティア活動に伴う助成金制度」を実施。毎年延べ300～500名の学生が利用している。

●ボランティア活動学生による『活動報告会』を開催

●センターウェブサイトやTwitter(@meiji_fukkou)での情報発信

本学の震災復興支援活動に関するイベント情報や、学生の活動状況に関する情報を中心に、関連情報を積極的に発信している。

●講演会・シンポジウムの共催/後援・情報発信・会場の提供など、センターの目的に即した活動の支援

被災地3県(岩手県・宮城県・福島県)での活動

●協定締結

震災復興支援を目的とした協定を3自治体(福島県新地町・岩手県大船渡市・宮城県気仙沼市)と締結

●学生・教職員によるボランティア活動

被災地での学習支援, 祭り支援のほか, 現地からの要請に対して学生・教員を派遣

V 協定締結自治体との主な取り組み

新地町

「明大 Week in 新地」

- 夏祭り「やるしかねえべ祭り」の支援(前日準備・当日運営補助・翌日片付)を中心に学生ボランティアを派遣した。

「新地町図書館ボランティア活動」

- 本学の司書課程受講生が新地町図書館において、本の紹介カード作りや展示の準備、閉架書庫展の選書などの図書館業務を手伝った。

「新地町明治大学ボランティア活動拠点」(2015～2016年度)

- 活動時の宿泊先として、2015年度と2016年度の2年間「新地町明治大学ボランティア活動拠点」を開設した。(利用者数：2015年度延べ92人、2016年度延べ61人)

「その他の活動」

- 和泉図書館ホールにて、「映画『新地町の漁師たち』上映会&対談(山田徹監督と新地町の漁師たち)」を開催した。(2016年7月2日)
- 体育会ローバースカウト部がデイキャンプを開催。また、新地町支援公認サークル「しんちーむ」による子どもを対象としたハイキングや星空教室など、独自の活動を実施した。



やるしかねえべ祭り 明大ブース



学生が作成した本の紹介カード



『新地町の漁師たち』上映会&対談

大船渡市

「学習支援・学童保育支援」

- 法学部阪井ゼミ生を中心とする本学学生が、現地のNPO法人協力のもと、地元の子どもの対象とした学習支援及び学童保育支援を実施した。

「祭り支援」

- 阪井ゼミ生(0B・0G含む)及び一般公募の学生とともに、大船渡市の「盛町灯ろう七夕まつり」で、前日準備から当日運営補助、後片付けの活動を行った。また、4年に一度開催される「日頃市五年祭」に阪井ゼミ生が参加した。

「地域資源活用交流促進事業」

- 阪井ゼミ生や文学部平山ゼミ生が、従来の祭り支援・学習支援・仮設住宅でのイベント開催などの活動に加え、現地の資源活用支援(観光地化を目的とした無人島開拓や椿産業化など)を実施した。また、阪井ゼミ生が学食とコラボし、被災地の食材を使ったメニューを期間限定で提供した。

「セルフケア講習会」

- 平山文学部准教授(社会学・身体論)が、震災による心身の疲れを癒すセルフケア講習会を定期的で開催した。(2014年～)



学童保育支援



祭り支援



椿植樹支援(椿産業プロジェクト)



被災地の食材を使った学食メニューを提供

気仙沼市

「気仙沼市職員採用試験」(2012年～)

- 気仙沼市職員採用試験の東京会場として、本学駿河台キャンパスの教室を提供した。

「デイキャンプ」開催(2014年～)

- 体育会ローバースカウト部がデイキャンプを開催した。



デイキャンプ

熊本地震への支援

「明治大学 熊本地震義援金」

- 募集期間：2016年5月1日～6月15日／受付結果：65件 122万4,735円 ※日本赤十字社へ送金した。

「益城町立木山中学校で折紙工学『夢講義』開催」

- 2016年7月15日、被災地の中学生に向けた教育支援活動として、「自分の未来を考える『夢講義』」を熊本県益城町で開催。萩原特任教授が「ものづくりに新しい価値を創造する計算科学&折紙工学」をテーマに講義と実習の二部構成で実施。2・3年生の生徒約170人が参加した。

「熊本地震写真展」開催

- ホームカミングデー「震災復興支援プロジェクト」において、本学熊本県人会学生有志が写真展を開催し、熊本地震被災地の現状を紹介した。
- 被災地から遠く離れ、首都圏を生活基盤とする私たちが、写真展を通して熊本地震の被災地に想いを馳せ、「今、一人ひとりができること」を考える機会のある場として、4キャンパスにおいて熊本地震写真展を開催した。(写真提供協力：熊本日日新聞社、本学教員)

「マンドリン演奏会」支援

- 校友会熊本県支部と明大マンドリン倶楽部が、3月5日に益城町、7日に阿蘇市において、熊本地震で被災した住民を招待して行った特別演奏会を支援した。



木山中学校での折紙工学
「夢講義」



ホームカミングデーで
の熊本地震写真展



熊本地震写真展



益城町・阿蘇市でのマンドリン
演奏会

その他

●ホームカミングデー「震災復興支援プロジェクト」

ホームカミングデーで、ゼミやサークル有志などの協力を得て、本学が取り組む復興支援活動を紹介するための写真展や活動報告会、防災・減災への意識向上を目的としたワークショップを開催するとともに、被災地物産販売等を実施した。

●東日本大震災復興支援活動報告会

震災復興支援に携わっている学生や学内の学生団体などが、お互いに連携して今後の活動を考える機会とすることを目的に、活動報告会を開催した。

●本学博物館で開催したイベントを後援

本学博物館で開催した福島震災遺産保全プロジェクトのアウトリーチ事業「震災遺構を考えるⅢ」の「震災遺構とふくしまの経験—暮らし・震災・暮らし—」を後援した。
(2017年1月-2月)



ホームカミングデー（段ボールトイレ作成・子どもとの防災ゲーム）



東日本大震災復興支援活動報告会

V 震災復興支援ボランティア活動に参加した学生

(単位：人)

| | 2011年 | 2012年 | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 延人数 | 374 | 311 | 514 | 481 | 499 | 352 |
| 実数 | 330 | 244 | 309 | 298 | 248 | 206 |

※この表は、「震災復興支援ボランティア活動に伴う助成金制度」の利用実績をもとに作成しています。

震災復興支援センターでは、学内諸機関や教職員それぞれが取り組む復興支援活動の状況をとりとまとめ、発信するとともに、学生の震災復興支援ボランティア活動が促進されるよう、様々なサポートを行っています。

明治大学 震災復興支援センター

(2017年5月 第4版発行)

■事務局（学術・社会連携部 社会連携事務室）

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 駿河台キャンパス アカデミーコモン11階
TEL:03-3296-4412 FAX:03-3296-4542 Mail: fukkou@mics.meiji.ac.jp
Twitter:@meiji_fukkou
URL:<https://www.meiji.ac.jp/reconstruction/index.html>